

第7回 講座・会議等記録

- 1 日 時 平成26年8月27日(月) 10時00分～11時30分
- 2 場 所 さいたま市文化センター(南浦和)
- 3 準備担当 7班
- 4 講座内容 (1) シルバー人材センターからのお知らせ
(2) 講演 「少しでも楽しく老いを生きる」 村瀬幸浩
内容は次のとおりです。

少しでもたのしく老いを生きる

—知恵 工夫 努力—

一橋大学講師 村瀬幸浩

- (1) 日本の夫婦をつないできたものは?
 - a 「苦楽をともにする」って本当?
 - b 財産? 法律? 子ども? ……いずれもあてにならなくなってきた
- (2) 情緒的な絆、性的な絆ってどんなこと?
 - a 一緒に生きていたのしいか 互いの生きるめあてに共感が持てるか
 - b 老いに向う 老いを生きる「性」への意識の切り替え
更年期 老年期の性と生 ……相互理解は可能か?
- (3) 「性」を支える「生」の共有・共感
 - a 関係をつくるとか育てることは面倒なこと…
覚悟がいる(自然にできるものではない)
 - b リスニングを基にしたコミュニケーション
 - c 互いの自立性を尊重する…いつも一緒になく、心地よい距離を
自立性とは、自分のことは自分で、出来ないことはたのむ、お礼を言う
支配しようとはしない
 - d やがて病む、衰える、頼る
- (4) 「食べる」という毎日の営みをにないあう…暮らしの基本
 - a 性別役割分業は時代おくれだけでなく、エロスを枯渇させる
妻のテリトリー(縄張り)だったところに入っていく…
生活スタイルを変える勇氣、意思
夫を受け入れ新しい協力関係をつくり出す工夫
 - b 変化が生まれ、たのしみが芽生えたら「老い」が面白くなる
たのしいと言えるための工夫も必要
- (5) 笑いあえる時間、関係…生の共有、共感
 - a パートナーの趣味にたまには付き合ってみる…時間はいっぱいある
 - b 清潔・ユーモアを大切に…エチケット・マナー いやな臭い、不潔はダメ
「性」についての個人差を重視するとともに相手のために
何かしてあげられないか工夫する
 - c 性は「健康」な生のためのもの —挿入幻想から触れ合う快感へ—
- (6) 老いとはやがて「ヒト」という自然に回帰していくことと考えられる
自然に回帰するとは食、ふれあい、笑いのある暮らし
—金、地位、名誉などでなく—
進歩とか変革とかアイデンティティとか、そうしたものも意味をなくしていく